

Quarterly
クォーターリー



高千穂大学 広報誌

冬号

2014/1 Vol.45

高千穂

Message

年頭のご挨拶

理事長に聞く

常に半歩先立つ進歩性



TAKACHIHO UNIVERSITY



Quarterly
クォーターリー

高千穂

Vol. 45 | 2014/1

Contents

Message

- 3 年頭のご挨拶 理事長 藤井 耐
学長 並木 雅俊
同窓会会長 金子 惇
父母の会会長 大泉 修

TAKACHIHO Interview

理事長に聞く

- 5 常に半歩先立つ進歩性

TAKACHIHO Information

- 8 研究報告 シエナ大聖堂の床面に見るモザイク錯視

TAKACHIHO Report

- 9 平成26年度入試関連状況報告
オープンキャンパス2013レポート

New Books & Review

- 10 書籍紹介

By Air Mail

- 11 海外留学・研修レポート

TAKACHIHO Campus Life

- 12 第48回 高千穂祭報告
平成25年度 ゼミナール発表会を終えて

New Director Profiles

- 14 学友会 新役員紹介

TAKACHIHO History

- 16 我が教育を振り返る 1 - 今野 廣隆 教授 -
我が教育を振り返る 2 - 小澤 勝之 教授 -

TAKACHIHO News

- 18 キャンパスニュース
編集後記

高千穂大学ソーシャルメディア 公式アカウント

facebook

<https://www.facebook.com/takachihouniversity>



[@takachihouniv](https://twitter.com/takachihouniv)



お詫び

2013年10月発行 vol.44 5ページ「野村 未有人」
さんの出身高校名が誤っておりました。お詫びして訂
正します。

正：千葉県私立暁星国際高等学校出身
誤：千葉県私立暁星高等学校出身

新春 祝、(旧)高千穂高等商業学校創立100周年

新年おめでとうございます。本年も本学学生・園児及び御父母の皆様をはじめとする学園関係者全ての皆様の御健勝・御多幸を心より御祈念申し上げますと共に、本学園のさらなる発展に向け皆様一人ひとりの御協力をお願い申し上げます。

ところで既に御周知のこととは思いますが、今年は(旧)高千穂高等商業学校創立100周年を迎えることになりました。名門高等商業学校として社会に広く認知・評価された教育機関でございました。多くの有為な人材がこの地より輩出されたことを思えば、現在、本学で学ぶ学生諸君もこの歴史と伝統の襷を引き継いだ責任の重さを改めて痛感されることと思います。(旧)高千穂高商が社会に広く認知・評価された主たる要因は、このキャンパスにて学ばれた先人・先輩諸兄に対する社会的認知・評価によるものなのです。本学卒業生である私も含め、その時代時代において、本学で学ぶ学生諸君の成長こそが母校高千穂大学の成長を実現せしめる最大の要因なのです。さらに、自らの成長は、自らの人生を豊かにせしめる最大の要因でもあり同時に、なによりも、君達の成長をそっと祈られている御父母の皆様方に笑顔をもたらす最大の要因であることを御理解され、本年も「真摯な努力」を継続されますようお願い致します。



理事長

藤井 耐



学長

並木 雅俊

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年が、みなさまにとって幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

大学の前身である高千穂高等商業学校は大正3年(1914年)4月に開校され、今年はその100年目にあたります。高千穂高等商業学校は、日本最初の私立の高等商業学校です。その教育理念は、「人格養成を主とし、商学上必要なる高等教育を施すにある」という人間教育を主体とした特徴を持っておりました。このため東京高等商業学校(現、一橋大学)、神戸高等商業学校(現、神戸大学)など商業経営や外国貿易に従事する人材養成を目的とする官学(国立)の高等商業学校とは性格が違っておりました。高千穂高等商業学校は、人間形成という意味においても、道徳の実践を掲げた成蹊実業専門学校(現、成蹊大学)、人文東洋主義を基にした巣鴨高等商業学校(現、千葉商科大学)、道徳を備える人材を目指した大倉高等商業学校(現、東京経済大学)などの私学商業学校の先駆けとして誕生いたしました。

みなさんの学び舎は、歴史と伝統があります。どうぞ信義を大切に、しっかりと学び、実りある1年となるよう心掛けてください。ご健闘をお祈りいたします。

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年は東京でも10月中旬に真夏日を体験するなど、各地で異常気温や風水害が頻発し、これまで経験のない記録づくめの年でした。今年は穏やかな1年であってほしいものです。

さて、同窓会は組織の拡充を重点事項の一つに掲げ、諸施策を展開してきております。とりわけ1都6県のうち未組織であった群馬県が、昨年秋に支部組織の発足が実現したことにより、同窓生の70%・在校生の86%が居住するエリアの組織化が達成されました。引続き支部組織拡充を目指してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

また、大学支援を行っており、同窓会奨学金を毎年20名前後に給付や資格取得講座の日本語漢字能力検定試験講座の開講など、在学生への就学支援にも力を入れております。

学園は3年後の完成を目途に主要な校舎の建替え工事に着手します。同窓会もこの事業が学園の更なる飛躍の機会となるよう、学園と協調してまいりたいと存じます。

皆様におかれましては、良き1年でありますようご祈念申し上げます。



同窓会会長

金子 惇



父母の会会長

大泉 修

飛躍 ～新春に想う事～

新年あけましておめでとうございます。

平成12年に発足した「父母の会」も今年で15年の節目を迎えます。父母の会は学園創立100周年を前に記念事業の一環として発足した組織であり、当時の保護者の方々の想いを今に受け継ぎ、現在も全国16支部による大学関係者の方々と交えての「父母懇談会」の開催や、様々な地域の食べ物を学食にて無料提供する「郷土企画」を行っています。10月には高千穂祭を応援したいという気持ちで来場した学生1人に対し500円分の金券を配布し、好評を得ました。

しかし残念な事に近年父母懇談会への出席者が減ってきており、特に地方支部はその傾向が顕著に表れています。忙しい時期で参加出来ない方も多いと思いますが、是非とも懇談会で子供の通う大学の雰囲気を感じてみてください。そして共に子供達が将来に向け飛躍出来るよう後押ししていきましょう。

今年1年が皆様にとって素晴らしい年でありますようお祈り申し上げます。



ふじい・たえる
1949年12月1日生まれ
1972年 高千穂商科大学卒業
1974年 明治大学大学院経営学研究科
修了後、高千穂商科大学へ
以来、経営組織論、経営管理
論を中心専門とし、大学院も
担当

2001年より学長
2007年より理事長

理事長に聞く

常に半歩先立つ進歩性

藤井 耐氏 高千穂大学 理事長・経営学部 教授

平成26年(2014年)新年を迎えました。本稿は、本学アジア研究交流センター客員教授・(株)明治、マーケティング推進本部マーケティング推進部長中島聡氏が編集委員をつとめる「日本マーケティング協会・協会誌」、「horizon」に掲載された原稿である。同氏の御高配により、本学園を広報して頂くことができましたこと、ここに深く感謝申し上げる次第です。

中島 近年、一部の私立大学においては、入学生減少の影響を受け、財政悪化に陥っている大学が増加傾向にある。そのような厳しい環境下にあって、地に足をついた安定経営をしている大学がある。今回ご紹介する高千穂大学である。高千穂大学には、現在第6期(2010年から2014年)となる中期計画があり、第1次計画は約30年前、1980年に遡る。中期計画マネジメントの日本で最初の大学の一つであることは間違いない。30年の歴史を持つ中期計画を軸に、特色ある「家族主義的教育共同体」を作り上げてきた背景には、常に時代の半歩先を読み、魅力ある大学づくりのために改善を推進するシステムと教職員の努力が息づいている。逆風の中にある大学経営の中、先を見据えて着実に進んでいる高千穂大学には、企業経営として学ぶことも多いだろう。同大学理事長 藤井 耐氏にお話を伺った。

中島 今回のマーケティングホライズン6号のテーマが「現実を直視する」で、今、世の中で高い評価を受けている現象について、この背景に何があるのかを探ってみようということです。今回御校にぜひお話をお伺いしたいと思ったのは、御校は「常に半歩先の進歩性」ということを尊重されていて、大学の中でも高い評価を得ていらっしゃると思うので、現実を直視するという意味では、現在の大学の教育のあり

方をふまえ、御校の特徴ある教育方法、理念、運営などお伺いできればと思います。

783もの大学があるなか全入時代と言われ、大学もひとつの企業体、経営という観点から見ますと非常に大変な部分もあろうかと思います。

藤井 高千穂大学は、1903年(明治36年)に開校した高千穂尋常小学校の開学に始まり、1914年(大正3年)現在の高千穂大

学の前身である、私学としては我が国初めての高等商業学校高千穂高等商業学校の開設以来、本年で学園創立110周年を迎えました。創立以来、理事会、教員、事務職員、同窓会、父母会等が一体となり学生ひとりひとりを家族のように支えていく「家族主義的教育共同体」という学園文化に基づく教育に努め、現在では商学部・経営学部・人間科学部および大学院の3学部1研究科で構成されています。

おっしゃるように、現在、国公私立783もの大学があり、今日では、進学率も同一年齢120万人の内、約50%の60万人が大学に進学する時代になりました。我々団塊世代240万人時代の大学進学率は11～12%でしたから、まさにエリート教育からマスプロ教育に移り、完全にユニバーサル化教育の段階を迎えたことになります。また、約50年間にわたる大学の数をみてみますと、団塊世代の方々が大学に進学した時代はおおよそ300大学、約20年後の平成元年には500大学、そして平成25年の今日は国公私立783大学です。一方、この50年間にみる経済状況は、経済成長から経済成長の鈍化・市場成熟化へと大きく変化しました。市場成熟化において企業は大学生の就職を厳選化せざるを得ない。しかし、大学への進学率は伸び、同一年齢60万人もの大学生がいる。今日の大学生及び、大学は熾烈な競争状況におかれていると言えます。このことは、今日ほど大学教育のあり方が問われている時代はなかったということの意味していることになります。私は本学における教育の原点を創立者の建学の精神に求めています。そして、この建学の精神こそ歴史を超え、その時代その時代の学生に伝えていかなければならない学生としての行動原理であるとも思います。

中島 建学の精神はどのようなものでしょうか。

藤井 同一年齢60万人の若者が大学生というユニバーサル化教育の今日、いかなる方法・内容にて教育を実践するのか。その指針こそが、建学の精神であり、私たち全教員、全事務員、そして学園の役員、皆共有化していなければなりません。学風の指針である「常に半歩先だつ進歩性」とは、牛歩のごとくで良し、歩みを止めることなく、努力を継続しなさい。そして、この努力の継続性を実践した学生は、社会や人間を客観的に分析する論理的能力が育まれ、さらに論理的能力が育まれるからこそ、自らを、又、社会の将来を展望する客観的な予見性を有することができる人材として成長するということを意味しております。

さらに、この建学の精神を実現化するための学生(人間)像として3つの学風目標「気概ある常識人」「偏らない自由人」「平和的国際人」があります。

「気概ある常識人」とは、人間の精神性を意味しています。精神性が強くなければ歩みは止まってしまう。「偏らない自由人」とは、常に冷静に客観的に中庸の思想を持って社会や人間を洞察しなさいという意味です。そして「平和的国際人」

とは、己だけが、そして自分の組織や国だけが良ければ良いということではなく、自らが大切ならば同時に他者の立場・思いがわかる配慮、優しさを持てる人間になってくださいという意味です。「気概・精神性」「中庸の思想」「配慮・思いやり」のある人間性を学問研究を進める過程において醸成することが、高千穂学園創設者の思いだったのです。

中島 最近の学生の質についてはどのようにお考えですか。

藤井 受験勉強を乗り越え学問的意欲の高い学生たちもいますが、一方高学歴・低学力等の形容もございますが、基礎学力も不十分、学問研究に対する意欲も弱い、将来を展望する意識もまだまだ薄いといった、若者たちも現実にはおります。さらに、今日の学生達は、その多くが兄弟姉妹の少ない家族構造の下、ご両親に大切に育てられた子供たちですから、人生80年・90年の時代においてこれからいかにして人生終焉まで生きていくことが望ましいのかというライフデザインを描くこともできず不安・苦悩を抱えている若者も多くいるものと思います。誰かがサポート・アドバイスしてあげなければ、自分の立ち位置すらわからない、何をしたいのかもわからないという学生たちも多くいるものと思います。これこそが少子化・市場成熟化・ユニバーサル化された今日の大学生にみる実態であり、彼等自身も、そして大学も厳しい現状におかれていると言えるものと思います。

中島 いまお話をお伺いして、大学生に対して人間として生きていく力、足元を見て生きていく力をつけてあげるのが大きな役割になったのですね。

藤井 学部生活の4年間において、学問研究を進めると同時に、いま自分に与えられている役割を真剣に遂行し生きていくことにこそ、人間の最も美しい姿があるということを、学生たちと共に学びながら気付いてくれることを切望しております。

中島 一般的な企業のなかでよくいわれるのは、職責を全うするという言い方をしますが、まさにそういうことなのでしょうね。

藤井 その通りです。ところで私は、「組織と人間行動」を自らの研究分野としておりますが、授業の折にこのような話もいたします。「君達、学生たちから見ると、大学の理事長や教授は何の不安も苦労もないだろうなと思っているかもしれませんが。全く違います。職場生活上の不安・苦悩は、いかなる職業、いかなるポジション、いかなる組織においても皆あるのです。大切なことは、その時々、自らに与えられた社会的役割・職務に真摯に取り組むということです。君達学生でみるならば、今ここに、学生として真剣に講義を受講しているということが重要なことであり、人はその姿に人間としての美しさを覚えるのです。その真摯な行為を人生の終焉をむかえるまで継続していくことこそが最も大切なのです。」と。これこそが川田先生の「半歩」という意味なのです。

中島 御校の学生さんは流通業に多く就職されていますね。実行力がある等、大変高い評価を耳にします。社会に出るまでにどのように学生の資質を向上されているのでしょうか。

藤井 私は人間の具備すべき資質としては、「①知識・知恵」「②感情・優しさ」「③意志力」「④行動力」「⑤倫理」「⑥責任感」「⑦配慮」すなわち「知・情・意・行・倫・責・配」にみる7つの資質であり、この種の資質を醸成することこそが「生きる」ということに他ならないものと考えております。そして、この種の資質を具備されている人間が、それぞれの社会でそれぞれの組織で存在感を認知されているものと思います。人間が個人という側面と同時に組織的存在であることを考えるならば、私達人間は個人として又、社会的存在として要請されるこれ等7つの資質を着実に育んでいかなければならないのです。本学の学生達もまさに、「常に半歩」たる学風の指針にうたわれているこの種の資質を醸成するための努力を継続されているものと確信致しています。

中島 よくわかります。「常に半歩先立つ進歩性」ということは、日々とにかく地に足をつけて努力していくということ。そうすることでバランスが取れていくのでしょうか。

藤井 少なくとも、人間個人を社会的存在という側面で捉えたときに知の醸成は個人の努力の側面ですが、それが醸成されることにより、同時に社会的存在として要請される資質、たとえば「他者への配慮」といった資質も具備されてくるのではないのでしょうか。まさに、7つの資質は相乗的相互補完関係にあるものと思います。

中島 私の高千穂学園に対する印象は実学の間という感覚があります。空理空論ではない、実学というのが生きる力を磨くことになるのでしょうか。

藤井 実学という定義が、理論と現実の融合として捉えられるならば、理論的かつクールな分析を展開しながら、現実をみると同時に、現実・現象を正確に捉えつつ客観的理論構築を進めるという研究態度であるということに他なりません。そして、この作業は、まさに研究者にも組織の実務家にも要請される能力であると思います。理論と現実とを常にフィードバックしつつ、より精緻化された理論的思考力を育成することこそが研究職及び実務家、さらには人間それ自身に求められているのではないのでしょうか。

中島 建学の理念、学風の指針を実現するために教育者側に求められる資質はなんのでしょうか。

藤井 言うまでもなく一つには私立大学(私立学校法人)である以上創設者の建学の精神を理解・受容し、自らの学内職務に従事すること。そして二つには、学生の親御さんの思いを自分の子どもへの思いと同一視して学生と接することが出来る人であると思います。

中島 まさに家族主義的教育共同体、ファミリーということですね。

藤井 そうですね。家族主義的教育共同体なる学園文化は、学部生活4年間に於いて、学生の自立的意識・行動及び・他者との共生的能力を理事会、教員、事務職員の方々を中心とするサポート・システムにより培っていく風土を意味しております。

中島 入学した時と卒業する時とでは大きな変化を遂げていると思いますが。

藤井 19歳から22歳の4年間ですから、大きな変化という言葉がはたして適切かどうかわかりませんが、先ほど申し上げました「知・情・意・行・倫・責・配」の資質が、18歳で入学式を迎えた時と、4年間で過ぎて卒業する時とでは明らかに違い、その成長の軌跡を検証することができます。

中島 これからよりいっそう高千穂学園の魅力を高めていかれると思いますが、より魅力ある大学としていろいろな展望がおりかと思いますが。

藤井 既に申し上げました通り、全国国公私立783大学が存在し、かつユニバーサル化を迎えた大学教育において魅力ある大学作りという作業は簡単なことではありません。同時に、私たち団塊の世代が大学時代を過ごした昭和40年代以降、半世紀を経た今日においても明らかに偏差値構造(大学受験時における基礎学力)による大学間ピラミッド構造も存在しております。そしてこの構造が今後も大きく変化しないと仮定すれば、基礎学力の不十分な学生に対しては、それを補いつつ各大学の建学の精神に立脚した個性的学生の育成を進めていくことではないのでしょうか。気付きを喚起し、社会的自立、経済的自立、職業的自立ができる学生を育成したいと思います。

中島 よく言われることですが、未来を考えてそのために一生懸命やるというやり方もあるかと思いますが、逆に一步一步やっていくなかで未来が見えてくるという見方もありますね。

藤井 その通りですね。両者の視点が必要です。ただし、将来を展望することが困難であるとも言える今日のような不確実性の時代では、後者の行動様式が必要なのではないかと考えます。長く明りの見えないトンネル、しかし、いつの日か明りの見える時がくる。明りが見えるためには今を大切に、5年、10年、30年…と半歩半歩歩み続けることではないのでしょうか。そのことが理解できる学生であってほしいですね。教育を受ける機会が与えられるということは素晴らしいことです。それをいかに活かしていくのか。早期に気付き、継続的努力を実践(実行)して頂きたいものです。

中島 まさに高千穂学園の半歩半歩という教育方針は素晴らしいと思います。本日は有難うございました。

(インタビュー:中島 聡 編集委員)

月刊「マーケティングホライズン」2013年6号掲載

研究
報告シエナ大聖堂の床面に見る
モザイク錯視

国際学会発表報告

European Conference of Visual Perception

(ECVP2013, Bremen, Germany 8月25日～29日)

菅野 理樹夫教授(人間科学部)



本研究はものがどうしてそのように見えるか(Why do things look as they do?)という視覚研究の根本問題についてこれまで背景の役割の重要性を供覧実験と観察に基づいて考察してきた。これまで行ったひとつの研究は「月に叢雲の錯視(ECVP2007, Arezzo, Italy)」である。満月の前を叢雲(高積雲)が通過すると満月の後ろを叢雲が通過する幾何学錯視現象が生じる事実を発見した。そのほかに叢雲が満月の後ろ側に巻き込む、満月が叢雲の進行方向と反対に回転する、日常では平面に知覚される月の表面が叢雲の通過により本来の立体的な姿に知覚されるなどの錯視現象を同時に発見した。これらの発見はこれまでの内外の研究で見られなかった現象である。これらの視覚現象の発生要因の一つは背景の役割の重要性である。ものの知覚の背景は観察者の視覚世界を安定させる働きがあることを指摘した。禅僧で茶人の村田珠光(16世紀頃)は「月も雲間なきは面白くなき候一出席: 禅鳳雑談(ぜんぼうぞうだん)」と月と雲の配置を巧みに詠んでいる。この表現は背景の不安定な知覚の未完了を説く最初のものであると考えられる。また「傾ける錯視(ECVP2010, Lausanne, Swiss)」では見方を変えることで背景とその上に現れる図の分離がきわめて明確になる事実を示し、背景の要因としてその連続性と類似性の役割の重要性を示した。このことはこれまで知覚研究が始まって以来100年の間に指摘されなかった事実であることに学術的に大きな成果である。



学会報告の風景



シエナ大聖堂の床面のモザイク錯視の例

今回報告する研究(ECVP2013, Bremen, Germany)はイタリア中部都市シエナの大聖堂の床面に施されているモザイク画(紀元14世紀から16世に建立)の中にみられるこれまでに発見されなかった幾何学的錯視現象である。このモザイク画は入り口から三つ目の絵(床面)を囲む外周路に見られる。奥行き方向の構図を例にとるならば、それは白色と茶色のマッハの本(音速の単位に由来する物理学者E. Machが発見した錯視現象, 1883)が連続するパターンでできている。連続するマッハの本のパターンを単位とするモザイク模様の知覚は入り口から教壇の奥までに白色と茶色の立体的な階段が二通りに見える。白色のステップの階段は左寄りに知覚され、茶色のステップの階段は右寄りに知覚される。しばらくじっと観察しているとこの二つの立体的な階段が交代して見える。この知覚現象はこれまで報告されていない新種の幾何学錯視である。このような錯視が起きるのは我々が知覚するときにその背景が明確でない条件では安定した知覚が生じず錯視(物理的世界と知覚世界のずれ)が生じる事実を示すものである。この100年間の研究で、ものの知覚には背景の役割が重要であることを内外に示した数少ない研究である。背景の役割の重要性は知覚研究が始まってから約100年の間言及されてこなかったが、近年では研究話題になってきている。

◆平成26年度入試関連状況報告

平成26年度入試は12月のAO・公募制推薦入試を終えて定員の約半数の入学予定者を確保しました。入試はこれからの一般入試、センター方式入試が本番です。今年的一般入試の特徴は、英語・国語入試（前期）とベスト2教科入試（前期）を特別選抜入試と併用しました。特別選抜入試とは、それぞれの前期日程入試合格者で得点率80%以上の上位5名については、1年次の授業料（68万円）を免除するというものです。この制度で入学し、2年次以降は本学奨学金制度の学業成績優秀者奨学金制度により表彰されれば、4年間の授業料免除も夢ではありません。ぜひ、多くの受験生にトライしていただき、入学後は夢の実現をめざしてほしいと思います。

[全学統一英語・国語入試]

英語と国語の2科目の合計点で判定。

[全学統一ベスト2教科入試]

英語・国語・選択科目から2科目以上解答し、高得点2科目の合計点で判定。

[センター方式]

センター試験の点数で判定。2教科型と3教科型がある。

一般入試＜全学統一英語・国語入試＞

日程	出願期間	入試日	結果発表日
前期	12月20日（金）～1月21日（火）	1月25日（土）	2月3日（月）
後期	1月25日（土）～2月20日（木）	2月24日（月）	2月28日（金）

一般入試＜全学統一ベスト2教科入試＞

日程	出願期間	入試日	結果発表日
前期	12月20日（金）～1月25日（土）	1月31日（金）	2月12日（水）
後期	2月12日（水）～3月1日（土）	3月6日（木）	3月12日（水）

一般入試＜センター方式＞

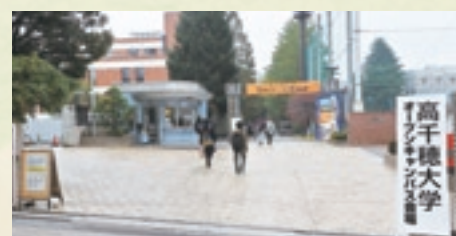
日程	出願期間	結果発表日
I 期	12月20日（金）～1月17日（金）	2月12日（水）
II 期	1月25日（土）～2月18日（火）	2月27日（木）
合格点公表型		
III 期	2月12日（水）～3月1日（土）	3月12日（水）
IV 期	3月1日（土）～3月14日（金）	3月20日（木）

◆オープンキャンパス2013レポート

今年は暑い夏から秋を跳び越えて一気に冬になった感があります。本学では、6月から12月までに8回のオープンキャンパスを開催いたしました。暑い中、雨の中、寒い中、ご参加いただきました高校生、保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今年度のオープンキャンパスは、できるだけ普段の学生を受験生に見ていただくことと、本学の特徴であるゼミナール教育をPRする企画を実施しました。具体的には、6月、8月の模擬授業に在学生在が加わり、高校生のワークのお手伝いをしました。また、8月にはゼミの研究内容をポスターセッションとして学生が発表しました。さらに、ゼミ活動の一環として毎年開催される「ゼミ発表会」に合わせて、11月4日にミニ・オープンキャンパスを開催し、メインコンテンツをゼミ発表会の見学としました。これらの企画は受験生により具体的な入学後の自身のイメージを印象付けることができたものと思います。



オープンキャンパス学生スタッフ



ゼミ発表会にミニオープンキャンパスを開催



模擬授業中にワークを手伝う在学生
（右：青色ポロシャツ女子が学生スタッフ）



受験生に日頃の研究成果を説明するポスターセッション



受験生はゼミ発表会を見学

今、学生に読んでほしい本！



田中 正隆准教授(人間科学部)より紹介
『ルワンダ中央銀行総裁日記 増補版』
服部正也著 [中公新書・1,008円(税込)]

『経済大陸アフリカ』
平野克己著 [中公新書・924円(税込)]

名著と評価が高い二冊。前者は独立当初の小国で、財政再建に奮闘した日本人銀行家の話。日常感覚の違い、仕事場での部下、同僚との葛藤話に思わず引き込まれてゆく。だが、遠い国での、偉い人の話として読みたくはない。この著の30年後、民族大虐殺というあの悲劇を経験することも、私たちは知る。今は、著者が困難に面した時、どう考え、どう決断したかを虚心に追う。後者は今日、市場として急成長したアフリカの実像を、最大の貿易相手国、中国の攻勢から浮き彫りにする。資源開発と安全保障のせめぎ合い、圧倒的な統計データの説得力に呆然としつつも、変動する世界に対して、では日本は、私は、今、何ができるかと考える。



画像:田中准教授所有

出版助成



画像:大学書籍撮影

松崎 和久教授(経営学部)より紹介
『グループ経営論 -その有効性とシナジーに向けて-』

松崎 和久著
[同文館出版・4,410円(税込)]
※平成25年度本学出版助成



本書は、複数の事業部門によって構成された多角化企業の経営を巡る実態と展望について体系的に取りまとめた研究書である。主に当該領域の研究者やスタッフ部門従事者を対象に書いた専門書なので、初学者には少し難解かもしれないが、興味があればぜひ手に取ってほしい(そう言わず買ってね)。やっと出版まで漕ぎつけられた感想を述べると、「完全燃焼」だ。もうグループ経営など見たくも考えたくもない!!ほどやり尽した感が強い。根が真面目な性格?なので、本研究の最中は他のやりたい研究を犠牲にしてきたが、やっと新たな研究テーマ(今はヒミツ)に思う存分、没頭できるというのが正直な気持ちである。ぜひ次の成果にもご期待下さい。

図書館員が選んだこの2冊

『命がけで南極に住んでみた』

ウォーカー,ゲイブリエル 著<Walker, Gabrielle>/仙名 紀 訳
[柏書房・2,625円(税込)](2013/10発売) ISBN:9784760142965

-70℃、暗黒プリザード、ホワイトアウト、未知の生物…想像を絶する過酷な環境。しかし、なぜそこに取り憑かれるのか?人を拒み続ける酷寒の大陸に長期滞在し、全土を回ってわかった、南極の現在と人類の未来!



『ガガーリン—世界初の宇宙飛行士、伝説の裏側で』

ドーラン,ジェイミー<Doran, Jamie>/ビゾニー,ピアーズ 著<Bizony, Piers>/日暮 雅通 訳
[河出書房新社・2,520円(税込)](2013/7発売) ISBN:9784309206264

1961年4月12日、ユーリー・ガガーリンは人類として初めて地球の大気圏を離れ、宇宙飛行に成功した。だが、20世紀を代表する人物となりながら、その後の彼は、みずからが危うい人生を送る一方、国家に対しては脅威をもたらすような存在になっていく。

(画像:紀伊國屋書店BookWeb)



海外留学・研修レポート

12月12日(木)に4名のIBCS(アメリカ・オレゴン大学)の研修生が2ヵ月半の研修を終え、帰国しました。12月14日(土)に英語でのプレゼンテーションを行い、研修成果を発表しました。午後には海外研修30周年記念パーティーが行われました。

IBCS 研修生報告

2013年度IBCS研修生リーダー 玉田 曜一郎 (経営学部3年 藤芳ゼミ 石川県私立星稜高等学校出身)

始めに僕がIBCSに応募しようと思ったのは、海外留学への憧れとアメリカに友達を作りたいと思ったことです。大まかに言えばこの2つなのですがその他に、趣味でやってるスケートボードの本場に行きたいという事とコーヒーが好きなので有名なコーヒーショップを回りたいということも応募理由です。アメリカには去年に単身で旅行に行ってきたので行く事に関して抵抗はないのですが、10週間と言う短期留学なので少し不安はありました。でも実際に行ってみて暮らしてみてもその不安はなくなりました。なぜなら、オレゴン大学があるユージーンは自然が多く安全な街だったこと、僕は寮に住んでいたのですが、もちろん友達もたくさん住んでいるので楽しく過ごす事ができたからです。苦労したことはやはり宿題で、平日はたくさん出るのでそれを次の日までこなすのが大変でした。でもそれも慣れてきて1ヶ月後にはそれほど苦では無くなっていました。もちろん、中間試験や最終試験のときにはかなり大変でしたが、それ以上に楽しいことがたくさんあったので頑張る事ができました。一番の思い出はサンクスギビング(11月の最終週にある4連

休)の時にはLos AngelesとSan Franciscoに仲のいい友達と旅行をしたことです。Los Angelesではベニスビーチやダウンタウンに行き、San Franciscoではゴールデンゲートブリッジや有名な観光名所をたくさん回ったり、もちろんスケートボードをしたりコーヒーショップにも行きました。本当に忘れられない思い出になったと思います。IBCS研修では語学学校に来ているブラジル人、中国人、サウジアラビア人などと友達になれることはもちろんですが、寮に暮しているとネイティブアメリカ人とも友達になる事ができます。帰国して、10週間は英語の学習にとっても早かったなと思いましたが、英語の学習はそれだけでは終わらないと言う事です。なぜなら、今はSNSが発達していてFacebookなどでやりとりができます。また、その友達が日本に遊びに来たり、逆に海外に遊びに行き会ったときはもちろん英語で話すため、もっと英語の学習を自分自身でしなくてはならないと改めて実感しています。海外留学を考えている人はまずはIBCSから是非参加してみるといいと思います。



海外研修30周年記念パーティーを開催しました。

平成25年12月14日(土)に海外研修生のOB・OGをご招待し、海外研修30周年記念パーティーを開催しました。1982年入学のOBから現役の在学学生まで30年間の幅広い海外研修生OB・OGが約50名、ご来賓やご父母の皆様、在学生や教職員あわせて100名以上が参加致しました。ご来賓として海外提携先のひとつ、オレゴン大学のBob Diem氏のご参加も賜り、直前にオレゴン大学の研修から帰国したばかりの学生との交流も見られました。また、過去の映像や写真で30年間を振り返ったり、留学経験者ならではのユニークなテーマでのレクリエーションが行われたりと、世代間の交流を大いに深め、盛会にて終了しました。



第48回 高千穂祭

今年の高千穂祭は、10月18日から20日までの3日間行われました。地域や一般の方々も多数参加して頂き、今年度のテーマとして「Link」を掲げ、新しい企画やパフォーマンスが盛大に行われ無事終了しました。全ての企画・運営を行った高千穂祭実行委員会委員長に、話を伺いました。

第48回 高千穂祭報告

第48回 高千穂祭実行委員会 委員長
高石 佳那 商学部3年 庄司ゼミ
千葉県私立柏日体高等学校出身



まず初めに、第48回高千穂祭は多くの方々に支えられ、運営することが出来ました。ご指導を頂きました大学関係者の方々、並びにご協力頂きました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

第48回高千穂祭を無事終えられた事を大変嬉しく思います。今回の実行委員は約110名と増え、大学内の団体でも大人数の団体になりました。「テーマのLinkを達成する事が出来るのか」「来場者の方にも、運営する実行委員も高千穂祭を楽しんでもらうことが出来るのか」という不安と責任感でいっぱいでしたが、副委員長、局長をはじめとする3年生が各局の活動をまとめ、1・2年生が自分の役割を理解し行動してくれたことで、第48回らしい高千穂祭作りが出来たと思います。今年度のテーマは「Link」ということで1年間活動をしてきましたが、さまざまな場面でテーマを感じ

る事ができました。例えば今年度の新企画である「フラッシュモブ」では実行委員だけでなく各団体の方、一般の方に当日参加していただきました。また、コンサートでは例年以上の来場者があり、大盛況に終わりました。

最終日はあいにくの雨天でしたが、3日間を通してたくさんの方にご来場していただき、「とても楽しかったです。」と言って頂いたことや、1・2年生の「お疲れ様でした、楽しかったです、来年も頑張ります!」という言葉をもらい、委員長として1年間活動できて良かったと心から思いました。すでに第49回の活動がスタートしており、また色の違う高千穂祭が来年見られる事を楽しみにしています。



平成25年度 ゼミナール 発表会

今年のゼミナール発表会は、約11,000人の聴講者を達成し、学外のインター・インナー大会へ参加したゼミによる発表も増え、大きな発表会となりました。また、ゼミによるポスターを使ってコンテストの開催、アンケートをWebで回答・集計するなど新しい取り組みが行われました。

ゼミナール発表会を終えて

ゼミナール連合本部 委員長
大下 恭平 商学部3年 新津ゼミ

今年度のゼミナール発表会は11月4日(月)～8日(金)の日程で開催されました。今年度の発表パート数101パート、5日間での聴講者数は延べ11,414人となりました。また、今年度は新企画のポスター総選挙、昨年度に引き続きプレゼンコンテストも同時に開催し、今年度からは評価も学生が行うという形で実施しました。これによりゼミナール発表会そのものが学生主体の企画となったと我々は考えております。

しかし、学生主体のゼミナール発表会に変更するにあたり、様々な困難がありました。それは一部の先生方からのご理解を頂けなかった点や、現状に満足し、先に進まないことをよしとする考えが蔓延していたことなどの点がありました。ですが本

学の学風の指針である、常に半歩先立つ進歩性を心に掲げ、訴え続けた結果、今年度のゼミ発表会という結果を導き出すことができました。

このように学生主体の発表会になったことも然り、今年度も成功を収めることができたのも、発表パートをはじめ、関係者の皆様のご理解とご協力があったからこそだと思っております。この場をお借りしてゼミナール連合本部一同心よりお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今後もゼミナール連合本部をよろしくお願い致します。



プレゼンコンテスト受賞者発表

最優秀賞:小林第一ゼミ D班

ビジネスとは「人と企業が相互に依存し合うことにより、生まれるのではないか」という仮説のもと、依存に重点を置きながら研究を行いました。



優秀賞:小林第一ゼミ C班

発表内容はJT(日本たばこ産業)についてでした。

タバコ業界が衰退していく中でJTはどのような戦略で生き残るのかという発表内容でした。



敢闘賞:小林第一ゼミ A班

僕たち小林ゼミA班はコミックマーケットとTPPと漫画業界の関係についての発表をしました。2人だけの班で頑張った結果を残すことができたのでうれしいです。



ポスター総選挙 上位5パート 発表



松崎第一ゼミ (女の子班)



小林第一ゼミ (B班)



小林第一ゼミ (D班)



蘭部第二ゼミ (つけま班)



蘭部第二ゼミ(カカオLINE班)

第18代 学友会会長あいさつ



大原 佑介

人間科学部 3 年 大関ゼミ
東京都立練馬高等学校出身

この度、第18代学友会会長を務めさせていただくことになりました、人間科学部3年の大原佑介と申します。

私自身、1年生の頃から学友会本部に所属しており、所属した当時は1年生が自分だけしかおらず、役員は先輩ばかりでした。しかし、先輩方が卒業してしまい、最終的には自分が会長という立場になることとなりました。

1番下からはじまったのもあり、リーダーの立場に立った経験があまりなかったため、やること全てが初めてのことがばかりのスタートとなりました。しかし、任命されたからには自分なりに努力し、他の役員たちとも協力していき、学友会員同士の絆を少しでも深め、発展させていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

10月に行われた学友会総会でも話した

ことですが、第18代学友会では昨年に引き続き、体育会本部、文連本部、高千穂祭本部、ゼミナール連合本部の4つの団体との更なる交友・信頼関係を強固なものにしていきたいと考えています。そのため、来年の2月に取り壊し予定となっている3号館が使えなくなることで、総会・イベントなどが行えず、各団体で様々な支障が生じることと思いますが、前述の通り全学友会員がより活気あふれ、参加できるような新しいイベントを催していきたいと考えています。

最後となりますが、諸先輩方が築き上げてきた伝統を尊重しこれまで以上に発展させるべく、他の役員と力を合わせて活動してまいります。教職員の皆様、父母の会の皆様、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

第17代 学友会会長あいさつ

私が学友会会長になってから早一年が過ぎ、2013年10月末に任期を満了しました。会長として過ごした一年は自分を少なからず成長させてくれた一年だったと思います。

会長になり最初のころは、会議一つをまとめることもできず、役員全員のモチベーションを揃えることもできませんでした。前年に先輩の仕切り方などを見ていたとはいえ、実際に自分が仕切る立場になった時は大変な思いをしたことを覚えています。その後も新入生オリエンテーション、競技大会、高千穂祭など大きな行事を行う中で、前年度の反省や新企画の立案などやることは増えていきました。その中で会長の職務と同じ時期に就職活動が本格的に始まり、この一年間は大学生活の中で最も忙しかった時期だったと思います。このような状況の中で会

長という立場を全うできたのも事務局の方々、同期の仲間、後輩という支えがあったからこそだと思います。

私達が掲げた第17代学友会のテーマは「新歩」でした。会長である私はもちろん、役員や多くの学生が新しい一步を踏み出してほしいという思いで決めました。在任中には自分の力のなさを痛感した時もあり、頼れる仲間がいるありがたみも感じました。そして最後の秋学期学友会総会を終えて、大きな達成感を得る事ができました。以上のような経験があったからこそ、自分自身が新たな一步を踏み出せたと確信しています。

最後になりますが、この場をお借りしてこれまで支えてくださった皆様に感謝の気持ちを伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。





綿貫 良成

商学部 4 年 林ゼミ
新潟県立高田商業高等学校出身

 <p>企画局局长 高石 佳那 商学部 3年 庄司ゼミ 千葉県私立柏日体高等学校出身</p> <p>企画局では春学期、秋学期球技大会などの行事を運営しています。第18代では、学友会企画を通じて学生同士の交流はもちろん、教職員の方々と交流も深め、学校全体をさらに活性化させる事を目標として考えています。そのために、学友会企画の認知度を高める事、参加者数を増加させる事を軸にして活動を行っていきたくです。皆様ぜひご参加下さい。</p>	 <p>会計局局长 五十嵐 健 商学部 3年 楠美ゼミ 東京都立日本橋高等学校出身</p> <p>会計局長としてしっかりと責任を果たし、先輩から受け継いだものをより良い形で次の代に繋いでいきたいです。 また、学生の手本となるような行動を日々心がけ、学友会員の皆様がより良い学生生活が送れるよう努めてまいります。</p>	 <p>会計監査局局长 金築 正樹 経営学部 3年 小林ゼミ 千葉県私立東京学館浦安高等学校出身</p> <p>私は責任を持って仕事に取り組み、先輩たちが作り上げてきた学友会の伝統や歴史を受け継ぎ、さらに信頼していただけるような学友会を築き上げていきたいと思っています。 昨年度の反省点を生かし、今年は早めに活動し余裕をもって各本部・各団体に連絡をとり会計監査基準の徹底に努めていきたいと思っています。また会計監査局だからこその各団体とのつながりを大切に連携を強めていきたいと思っています。</p>
 <p>広報局局长 南口 実希 人間科学部 3年 百瀬ゼミ 東京都立本所高等学校出身</p> <p>広報局では、新入生を対象とした部活やサークルなどを紹介する冊子「ENJOY」の作成を毎年行っています。今年度は、例年よりさらに学校行事や、各団体の活動報告、告知などを積極的にを行い、皆様に学友会を始め、各団体の活動をたくさん知ってもらうために頑張っていこうと思います。</p>	 <p>学友会本部 書記局長 大下 恭平 商学部 3年 新津ゼミ</p> <p>書記局では会議の議事録作成、大学付近で奉仕活動をするクリーンアップキャンペーンなどを主に務めています。クリーンアップキャンペーンでは、各本部、専門ゼミ生、各団体と共に協力し、学生が主体となって掃除をすることで周りの学生も地域の環境に対して意識を高くもって頂けたらと思います。 書記局の活動に留まらず、全体を見て他局のサポートもしていきたいよう励んで参ります。よろしくお願い致します。</p>	 <p>体育会本部委員長 兼 学友会本部会計局員 竹内 峻 経営学部 3年 渋谷ゼミ</p> <p>第45代体育会は部活動の更なる活性化に取り組んでいきたいと思っています。 昨年度は春学期6月1日に体育祭を開催し、約260名の学生に参加していただきました。来年度はより多くの学生に参加を呼び掛けたいと思います。秋学期は三高商定期戦表彰式を無事に開催することが出来ました。高千穂大学は総合3位でした。来年度の三高商定期戦は総合優勝できるように部活動をサポートしていきたいです。</p>
 <p>学術文化団体連合会本部委員長 兼 学友会本部企画局員 植木 洋介 経営学部 3年 竹内ゼミ 東京都私立東京農業大学第一高等学校出身</p> <p>学術文化団体連合会では、所属団体の活動を円滑に行えるようにサポートをおこなっています。また毎年6月に行われる六月祭では、各部の日頃の成果を発表する場となっており、とても盛り上がる場となっています。来年度の六月祭では、各部の看板審査の復活も計画しています。現在文連には音楽団体芸術団体合わせて10団体所属しており、今年度より2団体の加盟があり、さらなる盛り上がりを目指しています。</p>	 <p>ゼミナール連合本部委員長 兼 学友会本部書記局員 大曾根 祐輝 経営学部 2年 大島ゼミ 茨城県立水戸商業高等学校出身</p> <p>今年度のゼミ発表会は、去年の反省を生かし、よりよい発表会となりました。このような結果になることができたのも、みなさまのご支援のおかげです。厚く御礼申し上げます。 来年度は、ゼミナール連合本部が創立40周年を迎える記念の年です。今年の反省を生かし、さらなる発展につなげていくように役員一同、総力を挙げて参りますので、今後ともみなさまの変わらぬご支援のほどよろしくお願い致します。</p>	 <p>高千穂祭本部委員長 兼 学友会本部企画局員 飯島 雄太郎 経営学部 2年 小林ゼミ 東京都私立八王子実践高等学校出身</p> <p>高千穂祭実行委員は今年度110名ほどの団体となりました。現在は、第48回高千穂祭の反省点や改善点を活かし、第49回の高千穂祭に向けての新企画の考案や、各局来年度の年間予定を作成中です。来年度は、例年の高千穂祭とは一味も二味も違った高千穂祭にしたいと思っています。実行委員一同全力で努めますので、ご協力よろしくお願い致します。</p>

第18代 学友会役員

 <p>副会長 宗野 明日香 商学部 3年 林ゼミ (神奈川県立藤沢高等学校出身)</p>	 <p>副会長 大森 雄也 経営学部 3年 大島ゼミ (東京都立高島高等学校出身)</p>	 <p>企画局員 美濃口 悠介 経営学部 3年 小林ゼミ (神奈川県立城山高等学校出身)</p>	 <p>企画局員 栗原 直大 商学部 2年 新津ゼミ (埼玉県立川口高等学校出身)</p>	 <p>企画局員 橋本 幸太 商学部 2年 岡部ゼミ (東京都立足立高等学校出身)</p>	 <p>会計局員 須永 広空 商学部 2年 成田ゼミ (千葉県立足利清風高等学校出身)</p>	 <p>会計局員 新井 秀和 商学部 2年 新津ゼミ (栃木県立宇都宮清陵高等学校出身)</p>
 <p>会計局員 北嶋 能大 商学部 1年 庄司ゼミ (東京都立杉並総合高等学校出身)</p>	 <p>会計監査局員 松原 拓哉 商学部 2年 佐野ゼミ (東京都立第一商業高等学校出身)</p>	 <p>会計監査局員 伊藤 貴洋 商学部 2年 新津ゼミ (東京都立府中高等学校出身)</p>	 <p>会計監査局員 吉樂 桃子 人間科学部 2年 小向ゼミ (新潟県立津南高等学校出身)</p>	 <p>会計監査局員 長澤 悠太 経営学部 1年 藤芳ゼミ (東京都立美原高等学校出身)</p>	 <p>広報局員 河村 匠吾 経営学部 3年 大島ゼミ (東京都立板橋高等学校出身)</p>	 <p>広報局員 山本 奈緒 商学部 2年 新津ゼミ (東京都立府中高等学校出身)</p>
 <p>広報局員 長谷川 源樹 商学部 2年 嘉瀬ゼミ (埼玉県立羽生第一高等学校出身)</p>	 <p>広報局員 加藤 優麻 人間科学部 2年 小向ゼミ (愛知県立名古屋女子大学附属高等学校出身)</p>	 <p>書記局員 渕原 千明 経営学部 3年 川名ゼミ (東京都立明星学園高等学校出身)</p>	 <p>書記局員 森貞 友里 商学部 2年 庄司ゼミ (兵庫県立立花女子高等学校出身)</p>	 <p>書記局員 川元 優我 人間科学部 2年 徳田ゼミ (東京都立八王子実践高等学校出身)</p>		

我が教育を振り返る 1

退職予定教授

人間科学部教授

今野 廣隆

在職期間：39年

担当科目：競技スポーツ A/B、

健康科学 A/B、

野外スポーツ、専門ゼミ



39年間の教員生活を振り返れば、順風満帆とはいかないが、それなりに小さな努力と実践を重ねてきた。その結果、体育人として胸を張って誇れることもある。それは、授業で学生に怪我をさせなかったことと、体調不良や病気のせいで休講にしたことが一度もなかったことである。

私は、1975年（昭和50年）4月、4年間勤務した都立光明養護学校を退職して本校の助手として採用された。助手の期限は5年で、専任講師に昇格できないと解雇という不安定な状態であった。週の担当コマ数は8～9コマあったが、助手の身分では科目担当者として名前が出ることは無かった。

もやもやの突破口を求めてとにかく研究実績を作ろうと、講義終了後に共同研究者の研究所や研究室に通った。例えば千葉大学の片岡研究室に、あるいは、明治生命体力医学研究所（当時）に。また、労働科学研究所では、それらの研究について徹夜で議論になることもしばしばだった。必死な思いと若さに溢れた時代だった。

80年4月に専任講師に昇格し、ようやく地に足が着くようになって仕事に打ち込んだ。研究活動も文部省（当時）の科研費の助成を受けて「高血圧症改善の運動処方作成に関する研究」などをしてきた。他にも、本学の個人研究費や総研のプロジェクト助成を受けて充実した研究活動ができた。

ゼミの授業では、「運動と血圧」「健康なからだづくり」をテーマとし、血圧測定、健康調査用紙で体調チェック、

健康な体づくりのための理論を学ばせた。さらに各種スポーツを通して体力づくりに取り組ませてきた。夏はキャンプやテニス合宿、冬はスキー教室、雄大な自然の中で楽しさや厳しさも体験して学生は成長してきた。

挫折もあった。76年2月の右目の失明である。本学のスキー実習終了後の自己研修中に起きた事故である。滑降中に転倒して右目を打撲した。ほんの一瞬の出来事だったが、取り返しのつかない事故だった。あの時の痛みは今でも体に刻まれている。

なんとか4月に職場復帰したが、視力の低下とともに視野も狭くなり、遠近感も掴めなくなってしまった。仕事への自信も失いかけたが、やれることは何でもやろうと自己流で剣玉やボールを使って遠近感の訓練をし、テニスやバドミントンなどもやった。そのうち徐々に感覚が掴めるようになってきた。志のあるところに道は開ける経験になった。そして、79年と81年の我が子の誕生が背中を押し、仕事も私生活もますます充実するようになった。

ところで、最初に記したとおり、今迄休講せずに過ごせたのは、体育人としての意地も当然あったのことは、恩師である医師小山内博先生の奨める健康法（朝食抜き・冷水浴・運動）を継続して40年間実践してきたお蔭である。

間もなく退職。これまでに多くのフルマラソン（129回完走）やウルトラマラソン（100キロ以上）に挑戦してきたので、これからも楽しむつもりである。人生のマラソンもまだまだ続きそうだ。師範免許を授けてもらった趣味の尺八を楽しみ、晴耕雨読の日々を送りたいと望んでいる。



我が教育を振り返る 2

退職予定教授

経営学部教授
経営学研究科教授

小澤 勝之

在職期間：43年

担当科目：

【大学】経営学概論 A/B、経営史 A/B、専門ゼミ

【大学院】経営史特殊研究、経営史研究指導、
経営史特講 A/B、経営史演習



43年前の27才の時に新潟大学の助手から本学専任教員となり、この3月で無事定年退職を迎えます。大変お世話になりました。自分に対しても長い期間を務め上げたことについて頑張ったと言いたいと思います。

本学の施設や教育環境や研究条件等は必ずしもトップクラスのレベルではありませんでしたが、教え子達である高千穂大学の学生は私にとってはどこの大学のどの学生よりも素晴らしい青年達でした。「学生と共に成長する」を教育の指針としてきた私にとっては、本学で出会い共に教え合った最高の贈り物でした。小賢しい計算のない伸び伸びした青年達との交流は、無限の彼らの成長可能性を感じさせて、精一杯全力をかけて彼らの成長と共に私自身の成長もできた43年間でした。

学部のゼミの学生だけでも約500名の卒業生を送り出してきましたが、卒業してから一度も再会できなかった学生は少なく、毎年行われているゼミOB会などで、毎年のように顔を見せてくれる常連の卒業生だけでなく、毎回めったに顔を見せてくれなかった珍しい卒業生も数十名ほど見えて、年一回のOB会が大変楽しみです。学生時代と変わらぬ伸び伸びとした卒業生達は、すでに第一期生は定年を迎えています、多くの卒業生は現役で会社の経営者や大手企業の役員なども多く、社会的にも責任ある立場を見事にこなしています。彼らの社会に出てからの努力や苦労話などを聞くと、教えた教師である私

が一番努力不足だなあと刺激になります。今年のOB会で「定年後は、毎月2〜3人ずつ訪問して話を聞きたいねえ〜」と半ば冗談で話した処、多くの卒業生が「先生、私の処から来て下さい」と言う者が多かったのにほろりとしました。高千穂の学生達はすばらしいです。

平成8年4月に創設された本学の大学院（経営学研究科）にも当初から教育に携わることになりましたが、他大学より後発のスタートでもあり、学生募集での苦労が予想されたことから、昼コースだけでなく夜コースや土日コースも開設されました。その結果、夜9時10分までの授業や日曜日も朝から夕方までの授業も担当せざるをえなくなりました。このため、学会活動や親戚づきあいにも支障をきたすことが多くなり、大変苦労しました。それでも台湾からの留学生や社会人の学生2人の計3名が博士号を取得でき、台湾の開南大学、山口県の東亜大学の各々の教授、ヨルダン大学の客員教授など研究者・教育者として現在第一線で活躍している教え子も出たことは幸せでした。私自身の研究テーマを発展させたり、議論が行き過ぎて涙を出すまでの激論になった事も度々でしたが、大学院のゼミで教えた約30名の卒業生と3人の現大学研究者とは、大学らしい研究もすることができました。大学の質は、規模でも名前でもありません。高千穂に集う学生と教職員との志の高さと努力にかかっていると思います。

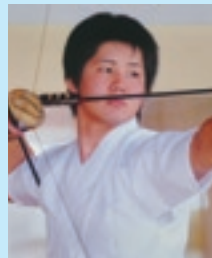


9月29~30日、11月5日

第68回国民体育大会(東京)への出場 & 秘書検定準1級取得!

経営学部4年山口純さん(茨城県立藤代高等学校出身)が第68回国民体育大会(東京)の弓道において茨城県代表(成人男子)で出場しました。競技は9月29日-30日に東京都立小金井公園弓道場で行われ、29日に遠的を行い37得点、30日に近的を行行的中数5という成績を残し、茨城県の25位(遠的)と22位(近的)へと貢献しました。

11月5日(火)公益財団法人主催の秘書技能検定試験準1級に合格した5名に対して、並木学長より表彰が行われました。合格者は商学部3年宮内佳保里さん(林ゼミ、東京都私立村田女子高等学校出身)、商学部3年関那之さん(倉茂ゼミ、東京都私立京北学園白山高等学校出身)、商学部3年鶴見千春さん(林ゼミ、東京都立第四商業高等学校出身)、商学部2年森貞友里さん(庄司ゼミ、兵庫県私立親和女子高等学校出身)、商学部2年飯田成美さん(石井ゼミ、東京都立井草高等学校出身)。



山口純さん



写真左から森貞さん、並木学長、飯田さん

10月21日

人命救助をした在学生が 表彰されました

人間科学部3年谷本遼介さん(木村ゼミ、神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校出身)が人命救助活動を行ったとして、平塚市消防長より表彰状を授与されました。谷本さんは9月22日、相模川周辺で友人とバーベキューをしていたところ、橋から人が落下したのを目撃し、迅速な判断で救助に向かいました。川から引き揚げた時、すでに救助した方は意識がなく、友人と共に心肺蘇生法を行い、一命を取り留めました。谷本さんは「プールの監視員の経験があり、その時の訓練のおかげで、体が素早く動いてくれた。何よりも人の命を救うことができて本当に良かった。」と話してくれました。



谷本遼介さん

11月6日

世界的ガラス工芸家の岩田久利氏の 作品が確認されました

本学出身(旧高千穂中学第31回卒)で昭和の日本を代表するガラス作家の岩田久利(1925-1994)の作品が、80周年記念館1階に設置されています。旧高千穂商科大学校歌「紫こむるの雲」を表したというこの作品には「あけぼの」というタイトルがつけられています。当日は、久利の作品を多数所蔵する町田市立博物館の学芸員齊藤晴子氏が本学を訪れ、作品の調査が行われました。来年度同館で開催される展覧会の図録で、本作品が紹介される予定とのことです。※岩田久利略歴:ガラス工芸家岩田藤七の長男として東京に生まれる。東京美術学校(現東京藝術大学)図案科卒。ガラスに関する豊富な科学的知識をもとに、色鮮やかで繊細なガラス作品を多数発表した。



11月12日

国税庁による記念講演会が 行われました

国税庁の「税を考える週間」の活動の一環として、東京国税局総務課長 金森 勝氏による記念講演会が開催されました。本講演会は昨年度に引き続き2回目の開催となり、会場では商学部商学科会計コースで学ぶ学生や教職員を中心に多くの方々が耳を傾けていました。

【講師】 東京国税局総務課長 金森 勝氏【内容】『明日への願い…二つは一つ』。



講師：金森 勝氏

11月12日

硬式野球部1部昇格&和弓部(男子) V部優勝・(女子)Ⅲ部優勝

硬式野球部は、東京新大野球連盟秋季リーグ戦2部において、8勝2敗で優勝しました。その後1部2部の入れ替え戦では、東京学芸大を延長10回、3対2、2勝1敗で破り、2季ぶりの1部昇格を果たしました。これから1部リーグでの戦いが始まります。更なる応援をお願いします。

和弓部は、東京都学生弓道連盟男子部・女子部のリーグ戦に参加しました。男子は成城大、工学院大、二松学舎大を破り全勝でV部優勝となりました。Ⅳ部との入替戦では日本文化大に82中-64中で見事勝利し、Ⅳ部昇格となりました。また、女子は大正大に敗れるものの国士館大・創価大・東京海洋大を破りⅢ部優勝。Ⅱ部との入替戦では東京医科歯科大に43中-53中で惜敗しました。



硬式野球部



和弓部(男子・女子)

11月30日

総合研究所がシンポジウム 「スマート社会に向けて」(後援:杉並区)を開催

高千穂大学総合研究所(所長:経営学部教授藤芳明人)は「スマート社会に向けて～人と環境にやさしい暮らし～」をテーマにシンポジウムを開催しました(後援:杉並区)。当日は講演とパネルディスカッションの2部構成で行われ、聴講者から多くの質問や意見が寄せられました。講演者:1.貴田 晃氏(日産自動車㈱マーケティング本部販売促進部部長)。2.木浪るり子氏(杉並区役所環境部地域エネルギー対策担当課長)。パネリスト:1.貴田 晃氏(日産自動車㈱マーケティング本部販売促進部部長)、2.木浪るり子氏(杉並区役所環境部地域エネルギー対策担当課長)、3.竹内 淨氏(人間科学部助教)。



左から竹内助教、貴田氏、木浪氏

12月2日

経営学部の五野井准教授が ユーキャン新語・流行語大賞を受賞

第30回(2013(平成25)年)ユーキャン新語・流行語大賞が発表され、年間大賞「今でしょ!」、「おもてなし」、「じぇいじぇい」、「倍返し」が選ばれる中、「ヘイトスピーチ※」がトップテン入りし、「ことば」に深くかかわった人物として経営学部五野井郁夫准教授(政治学)が顕彰を受けました。※ヘイトスピーチ…特定の人種や民族、国籍、宗教、性別といった先天的な属性に対して、差別や憎しみを煽ったりおとしめたりする言動。海外では許されない行為だとして法律で規制されている。



画像:(株)自由国民社 HP

12月14日

起業・事業承継コース 4年生が卒業研究報告会を開催

経営学部経営学科起業・事業承継コース4年生による卒業論文発表会「卒業研究報告」が行われました。この会は3年生が全体運営や司会進行などを行い、発表や審査が円滑に行われるようにプロデュースします。4年生は今までの研究成果である新しいビジネスモデルの提案や家業の事業承継に関するテーマを発表しました(商店街の活性化、女性視点のビジネスモデルなど)。大学教員に加えて実務家・起業家といった社会人サポーターが審査員となり、発表内容の評価・講評を行い、上位者を表彰しました。グランプリは経営学部4年吉田大毅さん(川名ゼミ、東京都私立駒場学園高等学校出身)。



卒業研究報告会の様子

9月24日~12月24日

総合科目(後期) 「女性リーダーたちに学ぶ」報告

秋学期火曜日2時限目にタカチホールで行われてきたのは、総合科目B「女性リーダーたちに学ぶ」。

経営者、NPO代表、社会起業家、編集者、大学教授など、様々な現場で活躍し、リーダーシップを発揮する女性リーダーたちを講師にお招きしました。

生活や地域での活動から出てきた課題や問題を、自分のためだけではなく、多くの人が解決できるにはどうしたらいいのか?そんな問題意識をもち、まず行動する!というバイタリティに溢れた女性たち。受講生の皆さんはその姿に圧倒されたのではないのでしょうか。また、ビジネスや研究の世界でも、女性の視点が加わることで多様な発展可能性があることがよく理解できたと思います。受講生間の交流も生まれ、春学期・秋学期通じて素晴らしい学びの場となりました。毎年この講座は、杉並区との連携で一般社会人の方々にも好評の公開講座となっています。受講生で社会人経験豊富なシニアの方、地域のNPOなどでまちづくり活動をされている女性の方などからの質問は、在学生にとってとても勉強になりました。

講義の内容や参加者のご意見・ご感想などの記録はフェイスブックページに掲載しております。

<https://www.facebook.com/bizcom2013>
是非ご覧ください。



講師:朝山氏



左:川名教授 右:講師徳本氏

編集後記

学内の銀杏の葉もさっぱりした12月。3年生就活シーズンに突入しました。就活生全員に言えることだと思いますが、就職活動が続いていると嬉しいこと、辛いことなど、たくさんあると思います。冬の寒さに負けず熱い気持ちを持って採用試験に臨んでください。就職支援課ではみなさんをサポートするために、様々なガイダンスを行っています。もちろん事務局での相談対応も随時可能です。その他の大学の教職員も、皆さんのことを応援しています!頑張ってください!

また、4年生の卒業シーズンも近づいてきました。この時期あとは卒業の合格発表を待つだけです。残り少ない学生生活を社会人への準備、勉強・研究活動、大切な仲間との思い出づくりなど、やり残したことの無いように過ごしてください。在学生のみなさんは4年生を盛大に送り出してあげましょう。3月の卒業式でみなさんとお会いするのが今からとても楽しみです。

編集委員
入試広報部 広報課
浅見 雅郁
坂田 利康
西原 正人





「大学基準に適合」の認定マーク

喫煙に関するルールについて

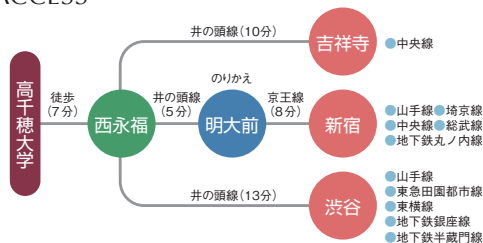
本学キャンパスのある杉並区は、条例により区内全域で、歩きたばこや吸い殻のポイ捨てを禁止（一部の路上禁煙地区では条例違反者から過料を徴収）しています。

本学においても、構内の指定された場所以外での喫煙は禁止とし、また、通学路等での喫煙についても歩きたばこや吸い殻のポイ捨てについては厳重に注意を与えています。

しかし、いまだにルールを守らない喫煙者が多く見受けられ、非喫煙者のみならず近隣住民の方々、ルールを守って喫煙している人にも多大な迷惑を掛けることとなっています。

高千穂大学の学生として、節度ある行動をとり喫煙マナーの向上を心がけてください。

ACCESS



- 山手線・新宿駅または渋谷駅から西永福駅（井の頭線）まで14分
（新宿駅からの場合は、明大前のりかえ）
- 中央線・吉祥寺駅から西永福駅（井の頭線）まで11分
- 西永福駅北口から本学まで徒歩7分

CAMPUS MAP



✉ somu@takachiho.ac.jp

Quarterly 高千穂 Vol.45

Quarterly高千穂 第45号

発行責任者：浅見 雅郁 発行：高千穂大学

〒168-8508 東京都杉並区大宮2-19-1 TEL 03-3313-0141

発行日：平成26年1月10日 無断転載・複製不可

